



愛とユーモアは人生を豊かにしてくれる

～佐野オリンさん、娘さんとの思い出～



クリニックふれあい早稲田 非常勤医師 高屋敷明由美

20年ちょっと前、私はみさと健和病院の“かけだしの研修医”でした。アカシア訪問看護ステーションの川上看護師長さんとは、その頃からの長いおつきあいです。その川上さんからお声かけいただき、3年前からクリニックふれあい早稲田の木曜訪問診療と夜間外来を担当するようになりました。

普段は筑波山麓の小さなクリニックなどのお手伝いをしながら、筑波大学附属病院の総合診療科で医学生や研修医の指導をしています。



高屋敷明由美先生
癒しになっているわんこ
たちと

<オリンさん 日々の暮らしぶり>

平成26年4月、久しぶりの三郷地域での往診にドキドキしながら連れて行っていた日のことを今でもよく覚えています。記念すべき最初の訪問先が、佐野オリンさん(当時96歳)のお宅でした。

前川看護師さん「調子はいかがですか。」

オリンさん「はい。上々です。(にっこり)」

娘さん「おばあさん、昨日の夜も歌い続けていました。朝起きたら、玄関前でコロと寝ていて、午前中は寝っぱなし。お昼に『ご飯だ！』って起きだしました。すごい腹時計だね。」と、かけあいが始まります。



蝶々「あざみさん 蜜をいただきます」「ええ いいですよ」

オリンさんは、本当にかわいらしいおばあちゃまで、お年は永遠の60代。好物はラーメン、小柄ながらにペロッとたいらげます。口癖は「どうも どうも」、ふとした時には「ありがたい、ありがたい」と涙を流されることもあり、帰り際には必ず「転ばないようにね。気をつけて帰るんだよ」と、お声をかけて下さいます。

オリンさんのかわいらしさと、それを温かく見守る、強くて一見荒っぽいようにお見受けしつつも、本当は深い愛情で細やかにオリンさんの様子を見てケアをされる娘さん、私は月2回オリンさんと娘さんとお会いすることを、毎回とても楽しみにしていました。

<苦難をのりこえる力とみんなの輪>

穏やかな日々がほとんどでしたが、何度か大変なこともありました。でもそのたびに、たとえ肺炎にかかっても、足の血の巡りが悪くなっても、床ずれができて、おうちのケアで治ってしまいました。食欲満点のオリンさんの備えもつ体力と、娘さんのケアの適当さと細やかさの絶妙なバランスゆえの回復です。本当に素晴らしい！

急変を何度も自宅療養で乗り越えたオリンさん、ずっと元気にいていただきかけたけれど、今年の初め頃から、徐々に体力が弱ってこられました。ほとんど動けなくなってしまっても、娘さんとお孫さんと、なんとかシャワーを！と、お二人でオリンさんをお風呂に運び、体をキレイに！その様子を聞き、私達は「どうやって??」とびっくり。同時にオリンさんを思う家族の方のお気持ちにほっこり、しみり。と思えば、「水分がと

れなくなってきたから、利尿剤はやめておきました」との一般の方とは思えない適格な判断に、これまた驚かされました。

<オリンさん、家族の皆さん ありがとう>

オリンさんと娘さんたちは、いつもユーモアたっぷり、具合のいい時も悪い時も、涙の時も、常に笑いがありました。私達医療者側が、気持ちの救われる思いがしたことが何度も何度もありました。

これからもずっと生き続けてくれる気がしていたオリンさんでしたが、今年の春に、とうとう天寿を全うされて旅立たれました。人生最後の生き様は、その方の生きてきた歴史と築いてきた人間関係がそのまま表れると言われていました。オリンさんと娘さんたちのご様子を拝見して、愛とユーモアは人生を本当に豊かにしてくれるものだと思います。

訪問診療というほんのつかの間の時間でしたが、幸せな瞬間を過ごさせていただけたことをとても感謝しています。

オリンさん、どうぞ、あちらの世界でもいつものように歌を口ずさんで、ほほえんでいて下さい。私もいつかそちらへ参りますので。



指の方「トンボさん、空に向かって散飛行しておいで」「は～い 行ってきます」

平和のつどい



8月5日(土)14時～18時 医療法人財団アカシア会と三郷わせだ健康友の会の主催、東都ファーマシー、健和会労組、障がい者団体が協賛となり、第8回平和のつどいが200名を超える参加者で盛況に開催されました。



この日は、クリニックを資料館にして原爆写真や戦時中の政府発行雑誌と書籍、職員が作成した年表や雑誌の解説集を展示、更には被災地復興支援の物産展が行われました。

会場の周りには「やきそば」「フランクフルト」「かき氷」「パン」「ケーキ」などの模擬店が並び、食欲をそそり飛ぶように売れました。



交流の広場では、ウクレレ演奏や紙芝居、合唱などで交流を楽しみました。平和を主題にした交流を紹介します。

▼私の戦争体験談(地域の加藤章さん)

「天皇のために命を捨て、靖国神社に祭られるのが最高の名誉。日本は神の国。必ず神風が吹いて戦争に勝つ。こう教えられ信じて疑わなかった時代でした。狂っていたとしか言いようがありません」

●第19代高校生平和大使(高校2年生 布川仁美さん)

「私は親の愛を一杯もらって成長しています。親の愛をもらえず戦争に駆り出される孤児たち。そんな戦争をしたくありません。してはダメです」

■2015年原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加(四ツ木診療所事務 小貫駿さん)

「全てをなくしてしまうのが原爆です。原爆が投下され72年。被爆体験者は高齢化し、私たちがこの体験をしっかりと語り継がねばなりません」

◆沖縄辺野古新基地建設を許さない行動に参加(リップル調理師 渡邊伸子さん)

「東京ドームの約40個分になります。自然豊かでジュゴンの生息地域をそっくり飲み込む新基地計画

は、米国の戦闘地域に飛び交うためのもので許す事ができません」

改めて普通に毎日を暮らせることの大切さを実感しあった交流の場でした。新井教代友の会会長は「ささやかでも今日のようなつどいが平和な日本を築いていく」と閉会の挨拶でのべ、参加者で確認し合いました。



<職員の感想から>

◎初めて参加しました。普段は目の前の生活だけになりがちですが、平和について考えるいい機会になりました。パティオメンバーと模擬店のかき氷、フランクフルト販売をしました。メンバーのお店の準備、機械の扱い、ケチャップの付け方などの手際の良さに驚きました。

私は、お客が途切れた時に、かき氷3杯と焼きそばを食べながら、最初から最後まで販売を続けることができました(笑)。資料コーナーの展示も気になりましたが、広島に行く機会があったら感じて考えてみたいと思います。(活動支援センターパティオ 鈴木真実)

■今年の実行委員だったこともあり、準備の段階からかかわることができました。

友の会の方にお借りした「写真週報」は、訪問看護で利用者さんと一緒に読んだり、読みながら戦時中のお話を聞くことができました。

終戦時のラジオ放送を思い出しながら涙を流す80代の女性、戦地の兵隊さんと文通していたことを懐かしく思い出された90代の女性、3兄弟みんな戦地に行ったけれども3人とも無事に帰ってくることができた80代男性。戦争を風化させてはいけない、私よりも若い世代にも戦争についてもっと知ってほしいと気持ちが強くなりました。(アカシア訪問看護ステーション 小沢亜紀子)

<  time ～私の楽しみ～ >

(アカシア訪問看護ステーション 川上貴子)

三郷市内に響き渡った花火。鮮やかな色が、黒い空に広がりました。火薬に赤はリチウム、黄色はナトリウム、淡紫色はカリウム・・・などの元素を添加しているそうです。どんな風にして三尺玉や四尺玉が空を彩るまでに打ちあがるのか、そんなことも考えた夜でした。静かに夏は終わります。





ちょっといい話 とってもいい話

～チャリティーコンサートに参加した英里さんから 嬉しい絵葉書が届きました～

クリニックふれあい早稲田 副院長 大場文江

アカシア会主催の「チャリティーコンサート」(4月)に参加した朝倉英里さんから絵葉書が届きました。英里さんは、兵庫県芦屋市に住んでいて、事故以来、新幹線に初めて乗ってチャリティーコンサートに参加して、ヘルマン・ハープを奏でてくれました。

英里さんは、24歳の時にスノーボード事故で重症の脳挫傷になってしまい、なんと半年間も意識が戻らなかったそうです。それから長い～長いリハビリ生活10数年をおくって今に至っています。

英里さんも私達三郷グループも、東京にお住まいの林智子先生にヘルマン・ハープを習っていて、その縁で一緒に合奏することになったわけです。英里さんのすご～いところはね、「会えて嬉しい！！」「今生きていて嬉しい」「ハープを弾けて嬉しい」と、今その瞬間を輝かせる生命(いのち)のエネルギーがオーラのように伝わってくることです。

英里さん、三郷に来てくれて有難う。又来年もお会いしましょうね。

<英里さんからの手紙>

ありがとうの気持ちを絵に……。天使が魔法のステップを、そっとヘルマン・ハープに……。春の日の花と輝く♪ やさしいやさしい メロディーが響き始めます。

えりにいっぱい幸せをありがとう♡ (えり)



<英里さんのお母さんからの手紙>

さわやかな春の日、三郷でとても幸せな楽しい経験と感動を有難うございます。英里にとって何よりのリハビリ。

私達、母娘にとって、これからの前向きに生きていく上での何よりのエネルギー源となりました。心より感謝、感謝です。

アカシア会のにも毛布をお借りしたり、特別の配慮を頂き、重ね重ね厚く御礼申し上げます。(朝倉)



アカシア通信を読んでくださった皆様。ヘルマン・ハープは暗譜しなくてよいので、年とっても、様々なハンデキャップがあっても奏でることができる新しい楽器です。習いたい方は是非連絡下さい。お待ちしております。(大場文江)



チャリティーコンサート ひとコマ「合唱」

【編集あれや これや】

前回から今回の発行まで、とても期間が空いてしまいました。すみません。この間、法人としても各事業所としても様々な事に取り組み、課題も見えてきています。そのような事を限られたスペースの中ではありますが、今後も発信していきたいと思えます。

“心に残っている あのこゝろ このこゝろ”のコーナーは、大場院長に書いてもらっていましたが、今回は木曜日の外来と訪問診療を担当している高屋敷明由美先生に書いていただきました。オリンさんの生き方に先生の想いを重ね合わせた心温まる記事を書いていただきありがとうございました。

(な)